

令和4年度 学校経営計画・学校評価

高知県立中村高等学校

課程

全

高知県の教育の基本理念		(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像	○ すべての生徒が安全に安心して学び、活動できる学校 ○ すべての生徒が自分の居場所を見つけ、役割を感じられる学校 ○ 生徒、保護者、地域、教職員がつながる学校 ○ 故郷を愛し、故郷の未来を担う若者が育つ学校 ○ 教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校	目指すべき姿を実現するための取組等	○ チームとして生徒を支援する組織の充実 ○ 連絡し、報告し、話し合う組織づくり ○ 達成感や充実感を得られる授業や活動の工夫 ○ ICTの活用とアクティブラーニングの実践 ○ 探究学習、主権者教育、防災学習の充実 ○ ボランティア活動やインターンシップの拡充 ○ 部活動での達成感、充実感による生徒の成長 ○ 学校行事での達成感、充実感による生徒の成長 ○ 部活動休養日の適切な設定
	生徒像	○ 学ぶ意欲と挑戦する気持ちを持ち、自分を高められる生徒 ○ 自分ごと、地域のこと、自分と地域の将来のことを語れる生徒 ○ 故郷や自然、仲間を大切に、「つながる」意識を持ち地域の未来を担う生徒 ○ 規範や規律を意識し、基本的な生活習慣が身に付いた生徒		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 】
【社会性の育成】	評価 【 】
【チーム学校】	評価 【 】

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価) A: 目標を十分に達成 B: 目標を概ね達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	・県アンケート「学習すること自体が面白い」高3肯定的回答70%以上【1年38%、2年38%、3年61%】《長期目標(3年間)》 ・第2回スタサポD層の生徒10名以内、D3が0名【<D層>1年7名、2年16名、<D3>1年0名、2年1名】 ・全国模試平均点偏差値50以上【1年50.6、2年47.3】 ・県アンケート「自主学習の仕方理解」70%以上【1年61%、2年62%、3年86%】	○課題探究の充実 ○アクティブラーニングの更なる推進 ○集団討論、グループワークを用いての思考・判断・表現させる機会の確保 ○面談の充実 ○家庭学習時間確保の取り組み				
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・県アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定的回答70%以上【1年56%、2年61%、3年84%】《長期目標(3年間)》 ・県アンケート「自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝える」肯定的回答90%以上【1年79%、2年82%、3年95%】 ・インターンシップ参加生徒数150名以上 ・ボランティア活動参加生徒数250名以上	○部活動の振興 ○体育祭、文化祭など学校行事の充実 ○中高異学年での取り組みの拡充(ピアチューター制度など) ○インターンシップ、ボランティア活動の拡充 ○教育活動の地域連携				

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○ICT機器を効果的に活用した授業を拡充する。 ○観点別評価の運用及び研究を推進する。	・県アンケート「学校の授業よく理解」の肯定的回答90%以上【1年76%、2年90%、3年92%】 ・県アンケート「学校の授業で自ら考え、まとめ、発表する機会」肯定的回答90%以上【1年86%、2年90%、3年91%】	○アクティブラーニングの更なる推進 ○課題探究の充実 ○ICT機器を効果的に活用した授業の拡充 ○中高・複数教科のグループによる相互授業参観の実施				
生徒理解 生徒支援	○安心できる学校生活のために、居場所と役割を実感できるようにする。 ○支援の必要な生徒、気になる生徒に素早く対応できるシステムをつくる。	・学校評価アンケート「学校での生活に満足」肯定的回答90%以上【90%】 ・学校評価アンケート「教職員への相談」肯定的回答70%以上【66%】	○支援が必要な生徒や気になる生徒の情報共有の徹底 ○いじめ予防等学習プログラムに基づく取り組みの推進(生徒指導の3機能を働かせた教科等の授業づくりなど) ○人権教育LHの充実				
学校の振興	○10年後、20年後の自分の在るべき姿を意識させる進路指導を充実させる。 ○学校全体で地域貢献を目指す。	・国公立大学の合格者数50名以上【R3:51名、R2:47名、R1:53名、H30:48名】 ・高校入試の志願者数増【R3:93名、R2:99名、R1:109名、H30:102名】	○部活動の振興 ○体育祭、文化祭など学校行事の充実 ○課題探究の充実 ○保護者への情報発信(ホームページや連絡ツールなど) ○中学生の部活動体験や学校説明会の充実				
働き方改革	○教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校をつくる。	・ストレスチェック「同僚からの支援」9ポイント以上【8.9】 ・働き方の改善及び意識改革 ・GWの在校等時間管理システムへの確実な入力及びセルフマネジメントの実施	○学校行事等のスクラップ ○水木放課後の会議NO ○会議の工夫、改善 ○部活動数の精選 ○長期休業中の年休取得推進 ○国のガイドラインや県の規則等の周知・徹底				